

報 告

財団法人豊橋市国際交流協会の日本語講座

久 野 かおる

キーワード：豊橋市 外国人登録者数 外国人の現状 日本語学習

1. はじめに

豊橋市の外国人登録者数は、2003年（平成15年）12月1日現在16,689人で、市の人口の4.4%を占めている。¹⁾ 中でも南米、特にブラジルからの新来外国人が多い。

財団法人豊橋市国際交流協会は、新来外国人の増加により必然的に生まれた機関である。外国人が日本で生活する際の障壁はいろいろあるが、日本語という言語は、外国人にとってかなり高い壁である。よって、財団法人豊橋市国際交流協会が、外国人のために日本語学習の場（日本語講座）を用意したのも必然的なことであった。

私は、1995年度（平成7年度）から日本語講座の講師をしている。それまでは日本語教師として専ら留学生と接してきたが、地域の外国人に日本語を教える機会を得て、豊橋という町や学校ではない場所で日本語を学習する外国人の周辺事情など、少しずつ知るようになった。

本稿では、財団法人豊橋市国際交流協会の概要、豊橋市の外国人の現状、日本語講座の概要をまとめる。なお、表や写真などの資料は、まとめて最後に付す。

2. 財団法人豊橋市国際交流協会の概要

2-1. 設立経緯

財団法人豊橋市国際交流協会（以下、「協会」と略す。）は、1983年（昭和58年）9月22日の豊橋市国際交流振興基金条例制定から設立に向けた準備が始まり、1989年（平成元年）4月1日に発足した。

設立の目的は、「人と地域の国際化」を目指すことであり、以下の項目が掲げられている。²⁾

- (1) 諸外国の人々とのコミュニケーションの場づくり
- (2) 日本文化と異文化の相互理解増進
- (3) 幅広い視野を持った人材の育成

協会事務所は、設立以来、豊橋市役所内（市長の執務室の隣室）に設けられていたが、1991年（平成3年）7月、国際交流活動を市民レベルに拡大していくため、市民が利用しやすい豊橋駅前に移転された。その後、事務所は、国際交流事業拡充のため1998年（平成10年）4月1日に再度移転（豊橋市駅前大通二丁目33番地の1 開発ビル3階）され、現在に至っている。

事務局の職員は6名（1名は常務理事、2名は嘱託職員）で、ポルトガル語・英語での対応が可能な職員もいて、土・日曜日と祝日も開かれている。

2-2. 事業内容

2003年（平成15年）8月1日現在の事業内容は以下である。³⁾

- (1) 交流事業
 - ① 青少年（中学生、高校生、勤労学生等）海外派遣
 - ② 語学講座、日本語講座
 - ③ インターナショナルフェスティバル、国際交流サロン等
 - ④ ボランティア育成事業
- (2) 留学生交流事業
- (3) 啓発および普及事業
- (4) 相談・調査・研究事業
 - ① ポルトガル語・スペイン語による弁護士相談、ビザ相談
 - ② 一日ブラジル領事館開催
 - ③ ポルトガル語による生活相談
- (5) 友好親善事業
 - ① 豊橋・トリード委員会活動支援

3. 豊橋市の外国人

3-1. 外国人登録者数

〈表-1〉の「在豊外国人一覧表」（平成15年10月1日現在）を見ると、豊橋市の外国人登録者数は、16,041人で、そのうち10,103人がブラジル国籍の人々である。〈図-1〉も合わせて参照されたい。はじめに示したとおり、平成15年12月1日現在の外国人登録者数は16,689人で、2か月の間に約650人増えている。

1989年（平成元年）から2003年（平成15年）までの推移を見ると、豊橋市の外国人登録者数は年々増え、全国の外国人登録者総数の中でも高い割合を占めている。浜松市、豊田市と並ぶ外国人集住都市である。外国人登録者数が増加した背景には、1990年（平成2年）に、出入国管理および難民認定法が改正され、ブラジル、ペルーから多数の日系人が来日、滞在するようになったことがある。彼らはいわゆる「出稼ぎ」と呼ばれる人々であるが、世界情勢の流れの中で、就労制限がなく、合法的に就労できる日本へ移動してきた人々である。

豊橋市の外国人登録者数は現在も増え続けている。その背景には、業務請負会社（人材派遣会社）と、彼らを労働力として必要とする企業（主に製造業）の存在がある。

3-2. 現状1—どのような人々がいるのか—

1995年度（平成7年度）から協会の日本語講座の講師を担当し、それと並行して1997年（平成9年）5月から日本語学習支援ボランティアとして協会の「にほんごきょうしつ」の活動に関わった。⁴⁾ また、本学のオープンカレッジ「外国人のための基礎日本語講座」を担当し、⁵⁾ 多数の新来外国人と出会い、彼らと接しながら、私なりに彼らの現状を知るようになった。私に多大な影響を与えてくれたのは、「にほんごきょうしつ」にやって来た日系ブラジル人の子どもたちとその家族、ポルトガル語・日本語の翻訳で協力してくれる日系2世ブラジル人、本学オープンカレッジ「外国人のための基礎日本語講座」のPRに協力してくれたブラジル食料雑貨品店の人々である。彼らとの交流を通して、彼らがどんな所に住み、どんな暮らしをしているのか、何が問題なのか、自分の目で確かめることができた。

以下に述べるのは、あくまでも私見であるが、豊橋市にはどのような新来外国人が多いのか、率直に述べる。

① ブラジル、ペルーの人々

いわゆる「出稼ぎ」と言われる人々である。多くは日系人で、「日本人の配偶者等」、「定住者」というビザで来日、滞在している。就労に制限がないので、合法的に自由に働ける人々である。⁶⁾

その中には、A：積極的に日本を知ろうとする人々と、B：日本にいてブラジル、ペルーでの状態を続ける人々がいる。Aの人々は、日本語学習にも積極的だし、自ら日本人と交流しようと努力する。

このところ、Bの人々の存在が目立ってきた。その理由として、特にブラジルの人々の場合、豊橋市内の市営、県営住宅（県営岩田住宅、県営・市営西口住宅、市営柳原住宅、県営王ヶ崎住宅、県営牛川住宅、市営金田住宅など）に集住し、彼らのコミュニティが出来上がっていること、職場など必要な場所に通訳がいて、コミュニケーションに問題が少ないこと、ブラジル食料雑貨品店⁷⁾で生活必需品が購入でき、情報交換できること、IPCポルトガル語放送（スカイパーフェクTV！）やインターネットで、日本にいながら自国の情報を得られること、国際電話料金の値下げにより、遠く離れた人々とのコミュニケーションが気軽にできること、豊橋市役所近くの教会で交流ができることなどが考えられる。

さらに、C：日本に定住する人々と、D：日本と自国を行ったり来たりする人々がいて、A、Bと交錯している。Cの場合、日本の一か所に留まる人々と日本の中を移動する人々がいる。日本語学習の点から見ると、Cの場合はある程度日本語学習を積むと思われるが、Dの場合はどうであろうか。

彼らの仕事の現状を見ると、例えば、M会社の工場で働く場合、午前8時から午後8時までの労働（残業4時間）は当たり前で、夜勤と昼勤が隔週である。土曜日に勤務がない者は、さらにアルバイトで他の仕事をしている場合もある。このような状況で、日本語を学習するのは至難の業であろう。

② 中国、フィリピンの人々

中国、フィリピンの人々の場合は、主にA：企業の研修生と、B：日本人男性のお嫁さんである。Aは、日本語学習が義務づけられているため、学習成果を上げるため努力する人が多い。Bは日本で日本人家族と同居する場合、日本語ができないことが直接、日本人家族とのトラブルにつながる。どうしても日本語を学習しなければならない。ブラジル、ペルーの人々と違って、コミュニティがないので、生活習慣、出産、子育てなど、ひとりで苦しんでいる場合もある。日本語学習の場で出会ったBの場合、できるだけ御主人にも日本語学習に参加してもらい、家族が円満に暮らせるよう協力を求めた。

3-3. 現状2—どのような問題があるのか—

3-2のブラジル、ペルーの人々には、言葉（日本語）の他に、以下の問題（障壁）がある。

① ビザ

日系2世であっても3年ごとにビザの更新をしなければならないが、更新の際に無職だっ

た場合はだれが身元保証人となるのか。日本に永住したいと望む人も多いが、その手続きには費用も時間もかかる。また、永住権を取得しても日本国籍ではないため、参政権などの日本人に与えられる権利が制限される。

② 就労

ブラジル、ペルーの人々は、人材派遣会社に登録して職を得ているが、来日の際にかかった費用（借金）⁸⁾を、人材派遣会社に返済した後の職が安定していない場合もあり、彼らの就労は極めて不安定である。

③ 住居

県営・市営住宅に入居できた人の場合はよいが、人材派遣会社の寮に入居していた人が、会社側から解雇された場合、寮を退去しなければならなくなるので、就労とともに不安定である。

④ 医療

人材派遣会社と行政側の都合で国民健康保険に加入していない人がほとんどである。⁹⁾ 海外旅行保険に加入している人もいるが、病気やけがの場合、医療費に困る。そのため、治療を受けない人も多い。子どもがいる人の場合は特に困っている。

⑤ 教育

外国籍の児童・生徒の場合は日本の学校で教育を受ける義務がないこと、日本の学校に入る場合は、日本語力に関係なく学年相当年齢によって振り分けられること、ブラジル、ペルーと日本は義務教育年数が違うので、高校や大学に進学する際に困難となることなどが問題である。不就学や不登校の子どもたちが多く、子どもたちの就労や非行などが問題となっている。¹⁰⁾

⑥ 福祉

外国人の障害者、高齢者に対する対応や子育て支援などが問題である。

3-4. 現状3—どのように対処しているのか—

① 行政側の対応

- 1) 豊橋市役所の国際交流課と住宅課にブラジル人の相談員を置いている。
- 2) 財団法人豊橋市国際交流協会にブラジル人の嘱託職員を置き、2-2で取り上げた業務を行っている。日本語学習に関しては、「日本語講座」と「ふれあい講座」¹¹⁾を主催している。また、日本語部会を設置し「にほんごきょうしつ」を運営している。

- 3) 豊橋市役所の教育委員会学校教育課には教育相談員が13名いて、外国籍児童・生徒の巡回指導に当たっている。
- 4) 愛知県教育委員会東三河教育事務所に語学相談員を1名置き、外国籍児童・生徒の巡回指導に当たらせている。
- 5) 愛知県立西高等学校にポルトガル語、中国語対応の教育支援員を置いている。
- 6) 豊橋市母子保健センターにブラジル人の通訳を置いている。
- 7) 豊橋市民病院にブラジル人の通訳を置いている。
- 8) 豊橋中央図書館にポルトガル語ができる嘱託員を置いている。
- 9) 平成14・15年度「多文化共生推進事業」の一環として、豊橋市役所で「外国籍市民との懇談会」を開催した。
- 10) 「豊橋ブラジル協会」の設立に向けて準備会を開催している。

② ボランティアの対応

1) NPO「フロンティアとよはし」による支援¹²⁾

平成10年12月に設立されたグループで、「検診会、子育て相談会、母語と学習サポート教室、母親学級、多言語相談メール等を実施すると共に、行政に生活環境改善の要望や政策提言を進めている。」行政と連携した支援を実現しているため、活動意義は大きい。

2) NPO「CSN豊橋」による支援¹³⁾

大学生によるグループで、豊橋市内に住む外国籍の児童・生徒の学習を支援したり、小学生と地図作りをしたりしている。外国籍の児童・生徒が集住する住宅で活動を展開しており、今後も活発な支援が期待できる。

3-5. 現状4—日本語学習は必要か—

以上の現状を踏まえると、ブラジル、ペルーの人々にとって日本語学習は必要か否か考えさせられる。もちろん協会の日本語講座を受講する人々は、目的があって受講している。しかし、それはほんの一部の人々で、大多数は日本語を学習したいと思いつつも実行できていない。¹⁴⁾

彼らが日本語学習に目覚めるのは、就労に直結する場合である。人材派遣会社が求める労働力の条件の一つに、日本語力がある。会社側は最低30%の日本語力（現場での指示がわかる程度）を要求するようであるが、何をもって日本語力30%というのかはあいまいである。¹⁵⁾

また、人材派遣会社の派遣先の企業によって、要求される日本語力が異なる。M会社の場合、生産ラインのリーダーは日本語力が必要であるが、リーダーでなければ日本語力は

ゼロでもかまわない。K会社は製造工程で、マニュアルを読む必要があるので、ひらがな、カタカナの読める者が要求される。I会社の場合は、日本語ができる者しか受け入れない。

しかし、日本語力と給料（時間給）の関係では、日本語ができてもそれほど時間給が変わらないので、学習意欲には結びつかないかもしれない。彼らが例えば、3-4で挙げたような職場で働こうとするなら、日本語を学習するだろうが、所得のみ考えれば単純労働者として働いていたほうが収入は多いだろう。

4. 日本語講座の概要

4-1. 目的

協会の日本語講座は、地域在住の外国人が、自立した日常生活を送るための一助となるよう、日常会話程度の日本語を習得できるよう、1990年度（平成2年度）に開講された。受講申し込み用紙には、「豊橋市に在住または通勤・通学している外国人を対象に、円滑なコミュニケーションをし、充実した日常生活を過ごしていただくため」とある。

協会事務局は、日本語講座を、増加を続ける外国人のうち、主に日本語での会話が困難な方（初心者）を対象とした、基礎日本語を習得するための講座と考えている。そして、日本語学習を希望する外国人の多数は、初めて日本語を学習する人々であることから、今年度（平成16年度）は、それまでのレベル別クラス編成をやめ、入門レベルの講座を2クラス同時に開講することになった。

なお、日本語講座終了後は、再度受講申し込みをして、繰り返し受講したり、協会の日本語部会（日本語学習支援ボランティア）による「にほんごきょうしつ」（1997年度から開始）に参加したり、日本語学習を継続することができる。「にほんごきょうしつ」は、受講者の希望に沿ったクラス（グループ）が設けられている。

4-2. 受講者推移

① 受講者数

〈表-2〉は、日本語講座の1990年度（平成2年度）から2003年度（平成15年度）までの、担当講師、受講者数、受講者の内訳（出身国）、講座の開催回数、開催場所、開催日時、クラス別をまとめたものである。なお、受講者数は受講申し込み数であり、申し込みをしても参加しない人がいるため、実質の受講者数とは異なっている。

豊橋市の外国人登録者数が増えるにしたがって、日本語講座の開催回数も増えた。2001年度（平成13年度）からは、年に4期（授業は1期全10回）、各期とも2クラスが同時開講

されている。また、1999年度（平成11年度）第1期まで土曜日に開講されていたのが、1999年度（平成11年度）第2期から日曜日に変更されたことにより、ブラジル、ペルーの受講者が急増した。講座の開講日に受講者が押しかけ、クラスの定員40名を大幅に超えた時期もあり、担当講師として無理を承知で授業を進めたこともあった。それでも、クラスが成り立ったのは、受講者の中に、日常会話ができる人が多数いて、授業の核になってくれたからである。しかし、ここ何年かの受講者は、まったく日本語を知らない人々がほとんどであるため、クラスの人数を抑えている。

〈表-3〉は、日本語講座修了証の発行数をまとめたものである。修了証は、日本語学習をしたという証がほしいという受講者の要望により協会会長名で発行するようになった。¹⁶⁾当初は、全10回の授業の出席が7回（7割）以上の受講者に発行されていたが、学習証明書という意味合いを考へて、現在は、出席が8回（8割）以上の受講者に発行されている。

② 受講者の職業

1990年度（平成2年度）から1992年度（平成4年度）までは、主に豊橋市内の英会話学校講師が受講していた。その後、主婦、工員、語学講師、研修生などが受講するようになり、1997年度（平成9年度）以降は、ブラジル、ペルーの工員が多数受講するようになった。

4-3. 授業内容

① 授業時間

現在は、毎週日曜日の午後1時半から午後3時までの1回90分間で、計10回の授業を実施している。

② 教室環境

協会内の研修ルーム（大・小）を二つ使用している。クラスの定員は2クラスとも各30名である。教育機器として、ルーム1には大型テレビ、ビデオ、OHP、CDラジカセ、ホワイトボードが常備されている。ルーム2には、テレビ、ビデオ、CDラジカセ、ホワイトボードがある。長机といすは、適宜移動できる。また、コピー機と印刷機が使用できる。

講座の様子は、〈写真-1, 2, 3〉を参照されたい。

③ 使用教材

1995年度（平成7年度）から2000年度（平成12年度）までは、AOTS編『新日本語の基礎 I』（スリーエーネットワーク）を使用し、久野のオリジナルプリントと合わせて、第1課から毎回1課ずつ進めていた。補助教材として、文法解説書各国語版と分冊各国語訳（単語リスト）の該当箇所をコピーし、配布していた。

2001年度（平成13年度）からは、プリント教材を編集し、教材としている。〈資料2〉を参照されたい。

プリント教材は、久野によるオリジナル作成部分（基礎文型を学習項目としている）、AOTS編『新日本語の基礎Ⅰ』および『みんなの日本語Ⅰ』（スリーエーネットワーク）会話部分（適宜）とかな（ひらがな、カタカナ）、RUMI SEI著『ビジネス日本語 速修コース』（J. B. Communication）の第1課（あいさつ）、沢村三恵子・下田伸子著『にほんご 45じかん』（専門教育出版）のイラスト（適宜）を久野が編集した。補助教材は、『新日本語の基礎Ⅰ』文法解説書各国語版、『新日本語の基礎Ⅰ』および『みんなの日本語Ⅰ』分冊各国語訳（単語リスト）を石川智嘉子氏が編集した。会話ビデオは、『新日本語の基礎Ⅰ』、『みんなの日本語Ⅰ』の他に、国際交流基金編『ヤンさんと日本の人々』を使用している。また、かな（ひらがな・カタカナ）を書く練習ができるプリントも合わせて配布している。

授業では、上記の教材の他に、練習問題のプリントを用意し、口頭練習に加えて、書く作業も随時取り入れている。

④ 学習項目

<入門クラス>

- 第1回 カタカナ「ア～オ」 名詞文：自己紹介
- 第2回 カタカナ「カ～コ」 名詞文：指示語「これ・それ・あれ・どれ」
- 第3回 カタカナ「サ～ソ」 名詞文：指示語「ここ・そこ・あそこ・どこ」
- 第4回 カタカナ「タ～ト」 名詞文：時間のことば
- 第5回 カタカナ「ナ～ノ」 動詞文
- 第6回 カタカナ「ハ～ホ」 動詞文：手段・方法の「で」、過去
- 第7回 カタカナ「マ～モ」 動詞文：授受表現「あげます・もらいます・くれます」
- 第8回 カタカナ「ヤ～ヨ」 形容詞文
- 第9回 カタカナ「ラ～ロ」 -は-が構文
- 第10回 カタカナ「ワ～ン」 存在文「います・あります」 日本の歌

<初級クラス>2004年度（平成16年度）は開講予定なし。

- 第11回 存在文：助数詞
- 第12回 形容詞文、名詞文：過去
- 第13回 比較・要求
- 第14回 動詞のテ形：語形変化、テ形接続、依頼
- 第15回 動詞のテ形：進行・状態

第16回 動詞のテ形：許可・禁止，形容詞・名詞のテ形接続

第17回 動詞のナイ形：依頼，義務

第18回 動詞の辞書形

第19回 動詞のタ形

第20回 丁寧体と普通体 日本の歌

⑤ 教え方，授業の進め方

授業は，日本語による直接法で行っている。ただし，文法用語や単語などはポルトガル語，中国語，英語を適宜使用している。絵カードやビデオなどを活用し，プリント教材の学習項目を順次導入し，口頭練習を中心に進めている。

毎回，授業のはじめにカタカナを書く練習をし，練習したカタカナを含む単語を導入している。例えば，「ア～オ」の練習では，「アイ」「イエ」「イイエ」「ウエ」など。

なお，今年度から第1回目の授業が始まる際に，久野は受講者に〈資料3〉のお願いをすることにした。

受講者のほとんどが工場で働いているため，「です・ます」（丁寧体）の日本語を知らない人が多い。逆に言うと，「食べます」は知らなくても，「食べる」はわかるということがある。よって，授業は，丁寧体で学習を進めるが，普通体も適宜提出し，受講者が知っている日本語を引き出すようにしている。

また，受講者が家族関係の中で，あるいは日常生活の中で覚えた日本語と，授業で提示する日本語が異なるので，彼らが戸惑うことがある。例えば，「ばあちゃん」はわかるが，「おばあさん」はわからないのである。このような点も留意しながら授業を進めている。

さらに，受講者の中には，子どもを連れて参加する人もいる。子どものほうは日本語に不自由しないので，親が上手に話せなかったり，間違ったりすると恥ずかしいと言う。親が努力していることを理解させ，いっしょに学習できるよう配慮している。

4-4. 受講者の感想および意見

2001年度（平成13年度）までは講座の最終回のみ受講者にアンケート用紙への記入をお願いしていたが，2002年度（平成14年度）からは，毎回できるだけ受講者にアンケート用紙を配布し，記入を求めた。その理由は，講座の回が進むにつれ，受講者数が減少するので，担当講師がその原因を分析するため，および受講者の反応，要望を把握し，授業の進度，教え方などを即座に調整するためである。

〈資料4〉は，初回と最終回のアンケート用紙，〈資料5〉は，第2回から第9回のアンケート用紙である。日本語，ポルトガル語，スペイン語，英語の用紙が用意されている。アン

ケートの取りまとめは事務局をお願いしている。例えば、〈資料6〉は、今年度(平成16年度)、第1期日本語講座のアンケート集計結果である。

受講者の受講理由は、「会話ができるようになりたい」が大多数である。その中には、子どもや孫と日本語で話したいからという人もいた。

これまでのアンケートでは、率直な感想、意見を頂戴した。授業内容については、難しいと回答する人がいる一方で、やさしいと回答した人もいる。確かに、受講者にレベル差があるのは否めない。担当講師間で、プレースメントテストをしたらどうかという意見も出たが、今のところ実施には至っていない。クラスの雰囲気、講師については、好意的な回答がほとんどであった。

以下の意見は、私が授業の改善かつ新たな試みをする上で、役立つ回答(久野の授業に対する回答)である。受講者すべてを満足させる授業ができれば担当講師としては言うことなしたが、できるだけ受講者の要望に応えられるよう、日本語学習を継続してもらえよう、毎回、気を引き締めて授業に臨んでいる。

① 講座について

- ・スピードが速すぎる。
 - 次回の授業で、前回の復習をし、進度の調節をした。
- ・大事なポイントはもっと深く説明してほしい。
 - 次回の授業で、前回の復習をしてから、次の学習項目に進んだ。
- ・遊びを入れることで理解しやすい。
 - ペアワーク、ロールプレイなど、受講者相互の交流時間を増やした。
- ・少しゆっくりだが、たくさんの日本語を話すことができた。
 - 授業を丁寧に進めた結果であると認識した。

② 今後の要望

- ・レベル3もやってほしい。 → 協会事務局に伝えた。
- ・授業の時間を長くしてほしい。 → 協会事務局に伝えた。
- ・少しやさしい漢字を教えてほしい。
 - 1回の授業で漢字を一つ学習することにした。
- ・ポルトガル語が少ないため、理解できない。
 - 受講者に配慮して、ポルトガル語を使用した。
- ・ポルトガル語を少しにしてほしい。
 - 受講者に配慮して、必要最低限のポルトガル語を使用するようにした。
- ・単語をもっと勉強したい。 → 受講者に補助教材を示した。

- ・先週勉強したものを繰り返す必要はない。
→ 同じだと思われないような復習を心がけた。
- ・人数を減らしてほしい。→ 協会事務局に伝えた。
- ・期間を長くしてほしい。→ 協会事務局に伝えた。

③ 日本語学習が続いた理由

久野は、昨年度から日本語講座の最終回に、受講者に対して以下のアンケートを実施している。回答は受講者の言語による自由記述で、ブラジルの受講者には、“força de vontade”, “interesse”, “necessidade” ということばが目立った。

〈質問〉 日本へ来て、毎日仕事で疲れているのに、日曜日に日本語を勉強しようと思ったのはなぜですか？ どうして最後まで続けることができましたか？

- ・興味と必要性があるから。最後までできたのは、学び続ける気力があるから。
- ・日本語は難しいけれど、学ぶ意欲があった。疲れていたけど、この挑戦はよかった。
- ・会社の従業員の話がわかるようになってきて、ますます興味を増した。だから終わりまでできた。
- ・少しでも日本語ができるようになったら、ブラジルにいる祖父母と話ができる。先祖のことばにいつも興味があった。
- ・ほとんどの仕事は日本語を必要としているから。日本語を身につけるまであきらめない。
- ・最後までできたのは、意欲と刺激があったから。いつも他人に頼りたくない。
- ・ここにいって日本語ができないことはとても格好悪い。
- ・勉強する必要性を感じたのは、コミュニケーションが困難だから。
- ・本当に疲れは大変だけど、今日本にいるから学ぶ機会を逃したくなかった。日本での一つの目標。私たちに教えるという意欲に感謝する。
- ・日本語をより良くするため。より良い仕事を見つけるため。日本社会との関係をより良くするため。
- ・少しでも日本語を覚えるために。仕事の量にかかわらず、授業が役に立っていたから。

4-5. 教授者（講座担当講師）の感想および意見

本稿をまとめるに当たり、講座担当講師の石川智嘉子氏、長門久明氏に、自由記述によるアンケートを依頼し、参考にさせていただいた。以下に、私見も交えてまとめる。

① 授業回数、授業時間、授業期間

1回の授業時間を2時間(50分×2)位にし、授業回数を7回位にしてもいいのではないかと。

これについては、すでに協会事務局には申し入れをしたが、諸事情により実現は難しそうである。

② 受講者数と受講者のレベル

1クラスの人数を15～20名にし、丁寧な指導ができるとよい。人数が多いと、発話の機会に限られる。事前にプレースメントテストをするとよいが、受講申し込みの際に、講座の内容とレベルを納得しているなら特に問題はないだろう。

どの担当者の授業でも、回を経るごとに受講者が減少することについては、日本語学習が困難であるからというより、受講者の個人的な事情（就労、引っ越し）によるところが大きいと思われる。

③ 使用教材

現在の教材がまとまっていてよい。教材はあくまで授業の道具であり、教え方が問われる。

④ 授業での問題点

クラス内のレベル差。

⑤ 授業での工夫

現在の教材から学習項目を絞り、とにかく口頭練習を繰り返し、受講者自らが発話できるようにする。

⑥ ポルトガル語ができる教師を希望する声があることについて

ブラジル人のみのクラスなら、文法説明などはわかりやすくなるだろうが、ポルトガル語に頼り過ぎると、日本語が定着しないので、日本語学習の効果が期待できない。この点に注意を要する。

4-6. 主催者（協会事務局）の取り組み

毎年、継続して日本語講座が開催されていること、開催回数が増えたことを見ても、協会がこの事業に力を入れていることがうかがえる。

受講者が途中で来なくなってしまうことについて、協会事務局から、授業の内容が難しいからじゃないか、もっとやさしい日本語を教えてくださいと言われたこともあったが、受講者側の諸事情もわかり、講座を充実させるべく互いに努力している。

協会事務局は、ブラジルの受講者への対応として、2002年度（平成14年度）から、ポルトガル語ができる講師（長門久明氏）を採用した。しかし、協会の日本語講座は、日本語学習を通じた、外国人相互の交流も目的とすることから、ブラジル人のみを対象とした講座は適当ではないと考えているようだ。現在設立準備中の「豊橋ブラジル協会」や外国人

集住地域の地域住民と連携を取ることによって、新たなシステム作りが進められることになるだろう。

5. おわりに

豊橋市は、2006年に市制100周年を迎える。今、私が知るべきことは、かつて日本人がブラジルやペルーに移住した際に、ブラジル、ペルーという国が、彼らをどのように社会の一員として受け入れ、どのように互いの障壁を乗り越えたのか、ということである。豊橋に来たブラジル、ペルーの人々は、かつて海を渡った日本人とつながっている人々である。私たちがブラジル、ペルーから学ぶことで、新たな展開が期待できるのではないだろうか。

最後に、本稿をまとめるに当たり、協力してくださった豊橋市役所国際交流課の佐藤信次課長、財団法人国際交流協会の竹岡美代子氏、日本語講座講師の石川智嘉子氏、長門久明氏、翻訳をしてくださったPaulo Mitsuo Kobayashi氏、そして日本語講座受講者の皆様に感謝を申し上げます。

<注>

- 1) 「豊橋市議会会議録」平成15年12月定例会 12月22日-04号参照。
- 2) 財団法人豊橋市国際交流協会編『とよはし国際交流の10年』1999年参照。
- 3) 財団法人豊橋市国際交流協会事務局の文書参照。
- 4) 日本語講座(全20回)では物足りない、もっと学習を続けたいという受講者からの要望に応え、協会事務局の支援を得て立ち上げた。
- 5) 2001年2月から2003年3月まで、土曜日の夜間開講。
- 6) 「コミュニティ」に関しては、以下の文献の記述が興味深い。
宮島喬著『共に生きられる日本へ』<有斐閣選書>の「外国人地域住民の諸タイプとその変動」(p. 25～)
駒井洋著『日本の外国人移民』<明石ライブラリー 11>の「第四章 定住化とエスニック・コミュニティの形成」(p. 136～)
駒井洋監修・編著『多文化社会への道』<講座 グローバル化する日本と移民問題 第II期 第6巻>の「第10章 ブラジル人―「住み分け」から共生へ」(深沢正雪氏筆)
- 7) 豊橋市内に10店舗ほどある。
- 8) E人材派遣会社の場合は、一人約30万円。(飛行機のチケット代や来日手続きの諸費用など。)
- 9) 人材派遣会社側は、国民健康保険への加入を勧め、市役所側は、会社側の保険への加入を勧める。
- 10) 朝日新聞2004年4月22日付朝刊に詳しい記述がある。

財団法人豊橋市国際交流協会の日本語講座

- 11) 平成4年1月から始まった。運営は協会の国際交流ボランティアで、毎週木曜日の午前中に生活家庭館（豊橋市公民館）で行われている。日本の文化、慣習などの紹介、生活場面での日本語学習が主な内容。
- 12) <http://www2.ocn.ne.jp/~frontier/>参照。
- 13) <http://csn.to> 参照。
- 14) 豊橋市企画部国際交流課発行『日系ブラジル人実態調査報告書』参照。
- 15) International Press（ポルトガル語新聞）のEmpregos（求人欄）に，“Falar 30% da língua japonesa”，“nível de japonês conversação 50%”，“nihongo 20%”，“idioma japonês acima de 70%”などと書かれている。
- 16) 〈資料1〉を参照されたい。

＜参考文献・参考資料＞

- 吉田良生／陳立行／西牧義江／アーナンダ・クマール著『地域産業・社会と外国人労働者』成文堂
1997年
- 駒井洋著『日本の外国人移民』＜明石ライブラリー 11＞明石書店 1999年
- 駒井洋監修／石井由香編著『移民の居住と生活』＜講座 グローバル化する日本と移民問題 第Ⅱ期
第4巻＞明石書店 2003年
- 駒井洋監修・編著『多文化社会への道』＜講座 グローバル化する日本と移民問題 第Ⅱ期 第6巻＞
明石書店 2003年
- 宮島喬著『共に生きられる日本へ』＜有斐閣選書＞有斐閣 2003年
- 田中宏著『在日外国人新版』＜岩波新書（新赤版）370＞岩波書店 1995年
- 財団法人豊橋市国際交流協会編『とよはし国際交流の10年』1999年
- 豊橋市企画部国際交流課発行『日系ブラジル人実態調査報告書』平成15年3月
- 「豊橋市議会会議録」平成15年12月定例会 12月22日-04号
- 法務省入国管理局「平成12年末現在における外国人登録者統計について」
- International Press（ポルトガル語新聞）

〈表-1〉

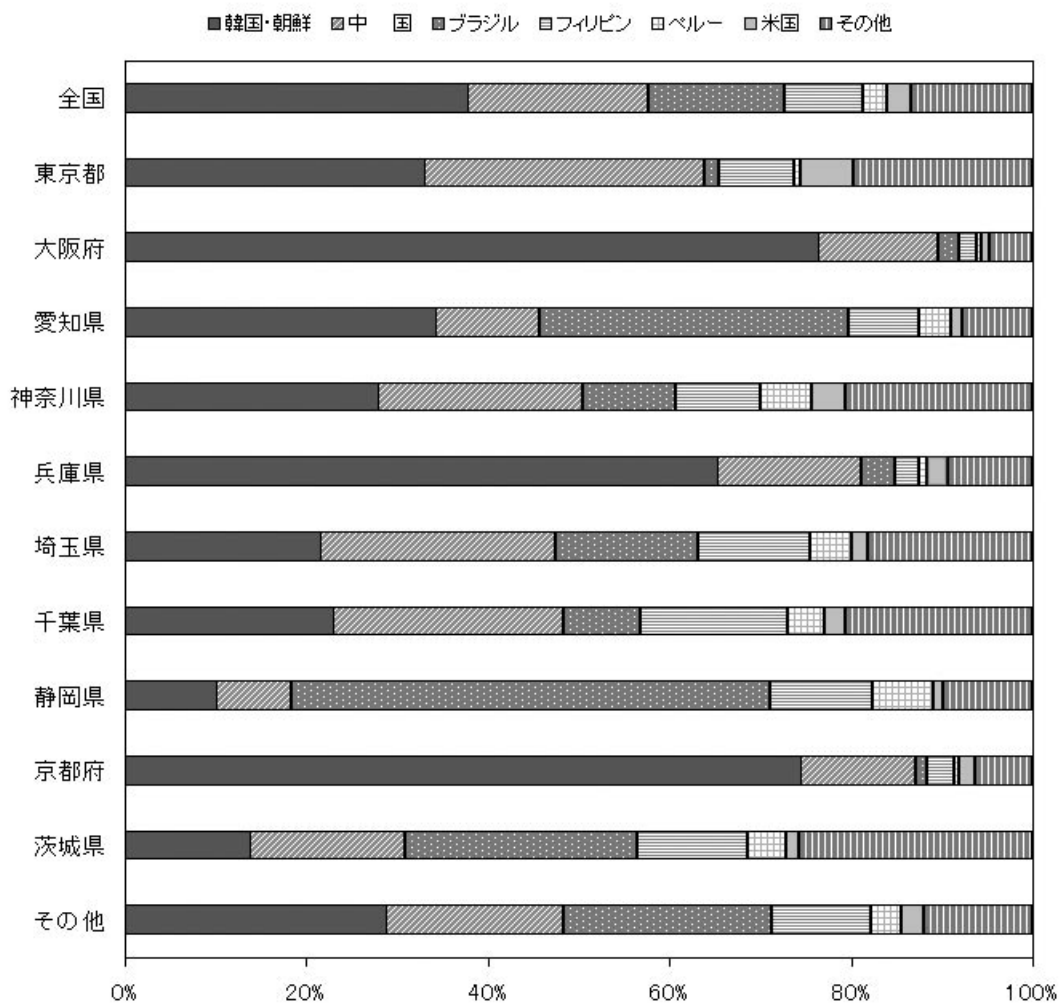
在豊外国人一覽表

平成15年10月1日

◆外国人登録者	男 7,824人	【主な国籍別内訳】	① ブラジル 10,103 (9,248)
65か国	(7,320人)	② 韓国 1,827 (1,816)	③ フィリピン 1,058 (947)
(56か国) 女	8,217人	④ 中国 873 (785)	⑤ ペルー 866 (847)
	(7,588人)	⑥ 朝鮮 337 (390)	⑦ インドネシア 165 (134)
計	16,041人	⑧ ヴィエトナム 61 (39)	⑨ アメリカ 55 (59)
	(14,908人)	⑩ カナダ 47 (39)	⑪ ルーマニア 46 (99)
◆過去の推移 [] 国数	～各年5月1日現在	⑫ トルコ 46 (22)	⑬ 英国 43 (51)
平成元年 [30]	3,529人 (対前年比)	⑭ タイ 43 (30)	⑮ ネパール 38 (35)
2年 [33]	4,459人 (126.4%)	※ () 内は平成14年10月1日現在	
3年 [31]	6,157人 (138.1%)		
4年 [37]	8,107人 (131.7%)		
5年 [46]	8,319人 (102.6%)		
6年 [48]	7,825人 (94.1%)		
7年 [50]	8,523人 (108.9%)		
8年 [57]	9,746人 (114.3%)		
9年 [61]	11,098人 (113.9%)		
10年 [63]	12,289人 (110.7%)		
11年 [60]	12,034人 (97.9%)		
12年 [62]	12,484人 (103.7%)		
13年 [59]	14,701人 (117.7%)		
14年 [63]	15,785人 (107.3%)		
◆留学生在豊状況	男 263名 女 162名	◆過去の推移	平成 元年 140 (36) 名
計	425名 (27か国)	2年	166 (42) 名
[主な国籍別内訳] *()内は内数で女子を示す。		3年	167 (39) 名
1 中国	219 (105)	4年	186 (52) 名
2 韓国	65 (27)	5年	214 (51) 名
3 インドネシア	33 (6)	6年	223 (57) 名
4 マレーシア	24 (6)	7年	220 (57) 名
5 ベトナム	13 (3)	8年	221 (85) 名
[大学、高等学校内訳]		9年	234 (72) 名
愛知大学	11か国 216 (123) 人	10年	277 (98) 名
豊橋技術科学大学	22か国 187 (32) 人	11年	289 (107) 名
豊橋創造大学	2か国 18 (5) 人	12年	315 (124) 名
市内高等学校 (4校)	3か国 4 (2) 人	13年	351 (135) 名
		14年	381 (149) 名

財団法人豊橋市国際交流協会作成

〈図-1〉 平成12年末現在 外国人登録者数上位都府県の国籍（出身地）別の割合



法務省入国管理局「平成12年度末現在における外国人登録者統計について」
<http://www.moj.go.jp/PRESS/010613-1/010613-1-5.html>

〈表-2〉

財団法人豊橋市国際交流協会 日本語講座受講者推移

1990年度 (平成2年度)		1991年度 (平成3年度)		1992年度 (平成4年度)		1993年度 (平成5年度)		1994年度 (平成6年度)		1995年度 (平成7年度)		1996年度 (平成8年度)	
講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数
濱本保子	25	濱本保子	35	真田佳代子	35	森田いずみ	29	山本いずみ	20	鈴木昌代	44 (入門)	久野かおる	50 (入門)
オーストラリア アメリカ カナダ 中国		オーストラリア アメリカ、ニュージーランド カナダ、ドイツ 中国、ブラジル		中国 韓国 アメリカ 他 全13国 全20回		中国 ペルー インド 他 全11か国 全20回		中国7、フィリピン2 タイ2、ペルー3、韓国1 パキスタン2、ブラジル1 ベトナム1、香港1		ブラジル3、ペルー9 中国19、韓国2、台湾1 パキスタン2、ドイツ2 フィリピン1、カナダ1、香港1 ベトナム1、インド1、アメリカ1		ブラジル9、ペルー10 中国9、フィリピン6、アメリカ4 パキスタン2、ドイツ2 ガーナ2、タイ1、イギリス1 台湾1、香港1、メキシコ1 イタリア1	
他 全8か国 全20回		他 全13か国 全20回						全9か国 全20回		全13か国 全20回(前半10回)		全14か国 全20回(前半10回)	
				講師名	受講応募者数					講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数
				月本 昭	28					久野かおる	44 (初級)	久野かおる	50 (初級)
				ブラジル ペルー *ポルトガル語による 日本語講座						*受講応募者の内訳は、上記と 同様		*受講応募者の内訳は、上記と 同様	
				全2か国 全20回						全13か国 全20回(後半10)		全14か国 全20回(後半10回)	

〈表-2〉のつづき

	1997年度 (平成9年度)		1998年度 (平成10年度)		1999年度 (平成11年度)		2000年度 (平成12年度)		2001年度 (平成13年度)		2002年度 (平成14年度)		2003年度 (平成15年度)	
	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数
第1期	久野かおる	38 (入門)	久野かおる	43 (入門)	久野かおる	13 (初級)	久野かおる	74 (初級)	石川智嘉子	39 (入門)	長門久明	38 (入門)	石川智嘉子	30 (入門)
	ブラジル 18、中国 6 カナダ 3、フィリピン 3 パキスタン 2、ペルー 2 オーストラリア 1、イタリア 1 インドネシア 1、日本 1		ブラジル 23、ペルー 12 中国 6 イタリア 1 パラグアイ 1		ブラジル 6、ペルー 1 アメリカ 1、中国 1 インドネシア 1、台湾 1 韓国 1、メキシコ 1		ブラジル 59、ペルー 4 韓国 3、カナダ 2 パラグアイ 1、中国 1 メキシコ 1、イギリス 1 オーストラリア 1、フィリピン 1		ブラジル 33、ペルー 3 中国 2、日本 1		ブラジル 32、中国 2 アルゼンチン 2、ペルー 1 イギリス 1		ブラジル 26、ペルー 3 アメリカ 1	
	全10か国 全10回		全5か国 全10回		全7か国 全10回		全10か国 全10回		全3か国 入門 全10回 久野かおる 32 (初級)		全5か国 入門 全10回 久野かおる 32 (初級)		全3か国 入門 全10回 久野かおる 28 (初級)	
第2期	久野かおる	43 (入門)	久野かおる	57 (入門)	久野かおる	74 (入門)	久野かおる	33 (初級)	久野かおる	46 (入門)	石川智嘉子	40 (入門)	久野かおる	32 (入門)
	ブラジル 29、中国 6 韓国 2、フィリピン 2 カナダ 1、イタリア 1 ルーマニア 1、香港 1		ブラジル 34、ペルー 8 カナダ 4、ネパール 4 中国 3、香港 1 日本 1、アメリカ 1 パラグアイ 1		ブラジル 61、ペルー 5 中国 3、フィリピン 2 アメリカ 1、イラン 1 マレーシア 1		ブラジル 30 ペルー 2 フィリピン 1		ブラジル 43、ペルー 1 中国 1、台湾 1		ブラジル 30、ペルー 5 タイ 1、フィリピン 1、カナダ 1 アルゼンチン 1、アメリカ 1		ブラジル 27、韓国 2 中国 1、スイス 1 インドネシア 1	
	全8か国 全10回		全9か国 全10回		全7か国 全10回		全3か国 全10回		全4か国 入門 全10回 石川智嘉子 30 (初級)		全6か国 入門 全10回 長門久明 19 (初級)		全5か国 入門 全10回 石川智嘉子 22 (初級)	
第3期					講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数
					久野かおる	64	久野かおる	57	石川智嘉子	46 (入門)	久野かおる	40 (入門)	石川智嘉子	30 (入門)
					ブラジル 43、ペルー 6 フィリピン 4、中国 2 コロンビア 2、韓国 2 イギリス 1、ガーナ 1 メキシコ 1、アメリカ 1 カナダ 1		ブラジル 52、イギリス 1 中国 1 インドネシア 1 フィリピン 1 カナダ 1		ブラジル 40、ペルー 4 中国 1、ベルギー 1		ブラジル 29、ペルー 5 カナダ 2、インドネシア 2 中国 1、ベルギー 1		ブラジル 18、ペルー 2 タイ 7、ボリヴィア 2、ドイツ 1	
第4期					全11か国 全10回		全6か国 全10回		全4か国 入門 全10回 久野かおる 33 (初級)		全6か国 入門 全10回 石川智嘉子 17 (初級)		全5か国 入門 全10回 久野かおる 16 (初級)	
									ブラジル 30、中国 2 ペルー 1		ブラジル 13、ペルー 3 タイ 1		ブラジル 9、ペルー 2 パラグアイ 1、中国 1 ベトナム 1、ボリヴィア 1、カナダ 1	
									全3か国 初級 全10回		全3か国 初級 全10回		全7か国 初級 全10回	
第4期									講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数	講師名	受講応募者数
									久野かおる	40 (入門)	長門久明	41 (入門)	久野かおる	30 (入門)
									ブラジル 32、ペルー 2 中国 5、ボリヴィア 1		ブラジル 37、ペルー 2 中国 1、パラグアイ 1		ブラジル 25、ペルー 4 中国 1	
第4期									全4か国 入門 全10回 石川智嘉子 25 (初級)		全4か国 入門 全10回 久野かおる 14 (初級)		全3か国 入門 全10回 石川智嘉子 23 (初級)	
									ブラジル 24、ベルギー 1		ブラジル 10、中国 2 オーストラリア 1、ペルー 1		ブラジル 19、ペルー 2 フィリピン 1、韓国 1	
									全2か国 初級 全10回		全4か国 初級 全10回		全4か国 初級 全10回	

〈表-3〉

修了証 発行状況

年 度	第 1 期		第 2 期		第 3 期		第 4 期	
	レベル1	レベル2	レベル1	レベル2	レベル1	レベル2	レベル1	レベル2
平成15年度	20	19	17	12	24	12	14	10
平成14年度	28	21	16	7	10	7	15	8
平成13年度	18	20	27	14	12	5	21	15
平成12年度	24	—	13	—	17	—		
平成11年度	7	—	15	—	17	—		
平成10年度	11	—	20	—				
平成 9 年度	7	—	8	—				

協会事務局（竹岡美代子氏）作成

〈写真-1〉



財団法人豊橋市国際交流協会内研修ルーム1で撮影

財団法人豊橋市国際交流協会の日本語講座

〈写真-2〉



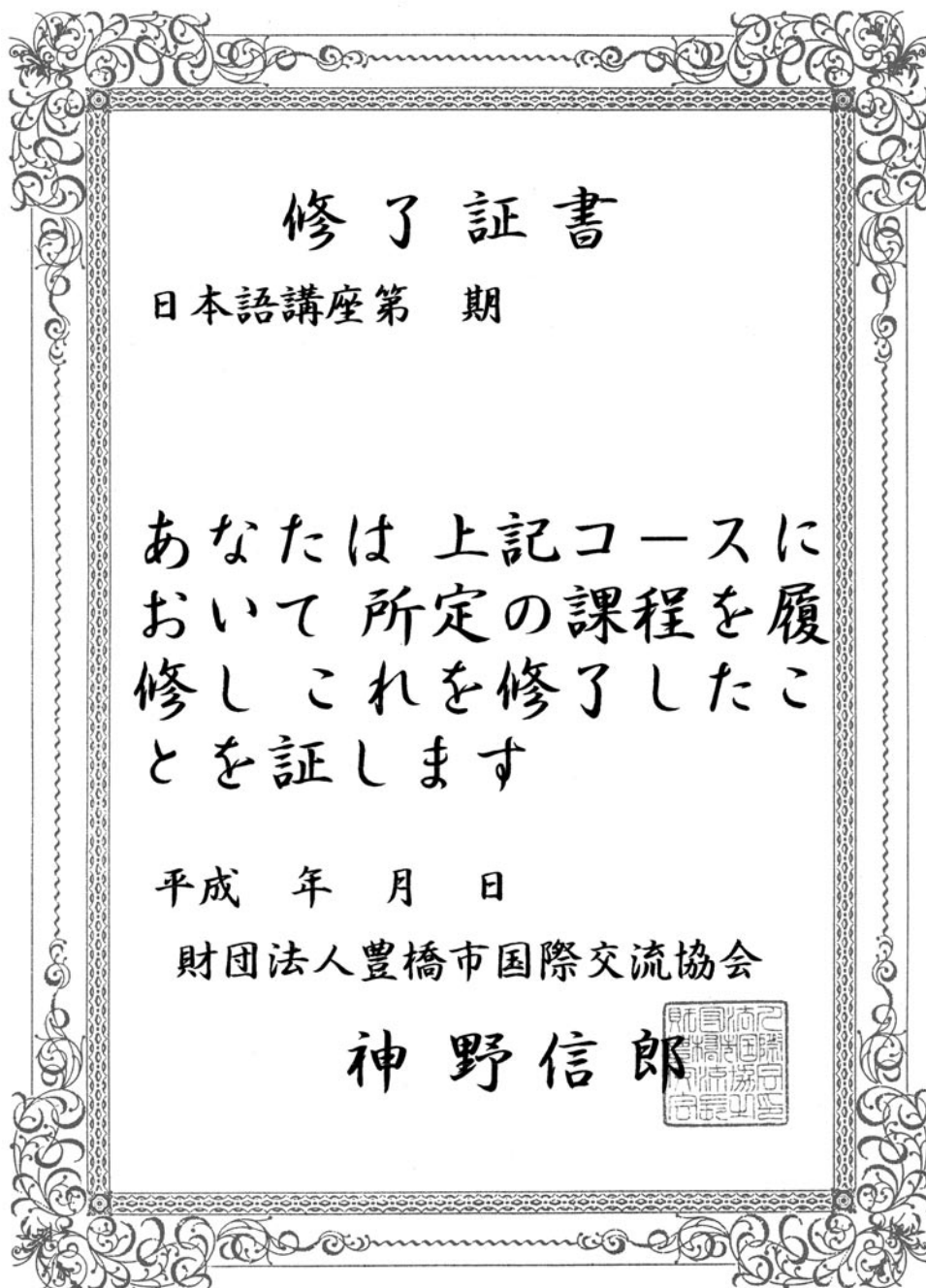
財団法人豊橋市国際交流協会内研修ルーム1で撮影

〈写真-3〉



財団法人豊橋市国際交流協会内研修ルーム2で撮影

〈資料1〉



財団法人豊橋市国際交流協会発行

〈資料2〉

はう しょうかい
紹 介

I.

- ① こんにちは。
② 私は _____ です。
③ 私は _____ 人です。
④ 家は _____ です。
⑤ 家族は _____ です。
⑥ 仕事は _____ です。
⑦ どうぞよろしくお願ひします。

こんにちは。
私は マリアです。
私は ブラジル人です。
家は 豊橋です。
家族は 3人です。
仕事は 会社員です。
どうぞよろしくお願ひします。

II.

- ① こんにちは。
② あなたの名前は何かですか。
→ _____ です。
③ 国はどこ(どちら)ですか。
→ _____ です。
④ 家(住まい)はどこ(どちら)ですか。
→ _____ です。
⑤ 家族は何人ですか。
→ _____ です。
⑥ 仕事は何ですか。
→ _____ です。

お名前は?
→ マリアです。
お国は?
→ ブラジルです。
お住まいは?
→ 豊橋です。
ご家族は?
→ 3人です。
お仕事は?
→ 会社員です。

Shōkai

I.

- ① Konnichiwa.
② Watashi wa _____ desu.
③ Watashi wa _____ jin desu.
④ Ie wa _____ desu.
⑤ Kazoku wa _____ desu.
⑥ Shigoto wa _____ desu.
⑦ Dōzo yoroshiku onegaishimasu.

Konnichiwa.
Watashi wa Maria desu.
Watashi wa Burajirujin desu.
Ie wa Toyohashi desu.
Kazoku wa 3-nin desu.
Shigoto wa kaishain desu.
Dōzo yoroshiku onegaishimasu.

II.

- ① Konnichiwa.
② Anata no namae wa nan desu ka.
→ _____ desu.
③ Kuni wa doko(dochira) desu ka.
→ _____ desu.
④ Ie(sumai) wa doko(dochira) desu ka.
→ _____ desu.
⑤ Kazoku wa nannin desu ka.
→ _____ desu.
⑥ Shigoto wa nan desu ka.
→ _____ desu.

O-namae wa?
→ Maria desu.
O-kuni wa?
→ Burajiru desu.
O-sumai wa?
→ Toyohashi desu.
Go-kazoku wa?
→ 3-nin desu.
O-shigoto wa?
→ Kaishain desu.

執筆者作成

〈資料3〉

日本語講座 受講生の皆さんへ

Aos alunos do curso de japonês

久野かおる

Prof^a Kaoru Kuno

1. 日本語は、ポルトガル語・スペイン語・中国語・英語とは文法構造が全然違います。
(韓国語とトルコ語は、日本語と同じ文法構造です。) ですから、初めて日本語を学習する人は、「日本語が難しい」と言います。
A estrutura gramatical do idioma japonês é completamente diferente do português, espanhol, inglês e chinês. (A estrutura gramatical do japonês é igual ao do coreano e turco). Por isso é natural no início achar que o japonês é difícil. Quando os japoneses estudam algum idioma estrangeiro acontece o mesmo.
2. このクラスは全部で10回です。でも、10回全部参加することはたいへんです。
遅刻しても、途中で休んでも、最後まで参加してください。もし皆さんが2回続けて休んだら、私は電話をします。
O curso terá 10 aulas. Desejo que apesar das dificuldades participem até o final. Mesmo que atrase ou falte, participem até o final. Caso alguém falte duas vezes seguidas telefonarei.
3. このクラスでは、毎回最初に10分くらいカタカナを練習します。皆さんの名前や国をカタカナで書くことが多いし、今、日本ではカタカナのことばがたくさん使われていますから。
Neste curso nos 10 minutos iniciais treinaremos a escrita Katakana, pois é muito usado atualmente, por exemplo para escrever nomes ou nomes de países.
4. 毎回、テキストの重要な部分だけ学習していきます。
Em cada aula estudaremos apenas a parte mais importante do capítulo.
5. 毎回、机の移動とアンケートをお願いするので、協力してください。
Peço ajuda na organização das carteiras e questionários.

※ポルトガル語訳はPaulo Mitsuo Kobayashi氏による。

にほんごこうざ あんけーと だい かい
●日本語講座 アンケート● 第 回



1. あなたのクラスのレベル: レベル1 レベル2
2. 性別: 男性 女性
3. 年齢: 10~20 21~30 31~40 41~50 51~
4. 職業: 工員 学生 主婦 自営業
 アルバイト 無職 _____

5. この講座を何で知りましたか
 会社で 人に聞いて 国際交流協会で

6. この講座に参加した理由はなんですか
 会話ができるようになりたい 日本語に感心があった
 仕事に必要なだから 自由な時間があったから
 場所が近くて便利 友達を作りたい

7. 講座の時間(90分)は
 長い 短い ちょうどよい

8. 講座の内容について
 むずかしかった よくわかった
 やさしかった _____

- 1回分の授業の内容は
 多い 少ない ちょうどいい

9. クラスの様子はどうでしたか

10. 先生はどうでしたか

11. この講座に参加しての感想は

12. 要望があればお書き下さい。

*ありがとうございました

〈資料5〉

にほんごこうざ あんけーと だい かい
●日本語講座 アンケート● 第 回

1. 講座の内容について

- むずかしかった よくわかった
やさしかった _____

1かいぶん じゅぎょう ないよう
1回分の授業の内容は

- 多い 少ない ちょうどいい

2. クラスの様子はどうでしたか

3. 先生はどうでしたか

4. この講座に参加しての感想は

5. 要望があればお書き下さい。

*ありがとうございました

〈資料6〉

第1期 日本語講座アンケート集計

2004/4/4 実施

レベル1：基礎 回収 21名/22名中 久野先生

●性別	男・・・12	女・・・ 9	
●年齢	10～20・・・3 31～40・・・4 51～・・・1	21～30・・・12 41～50・・・ 1	
●職業	工 員・・・19 主 婦・・・ 0	学 生・・・1 その他・・・0	
●情報源	職場で・・・6 協会で・・・5	友人・知人から・・・7 その他・・・5 (市役所、雑誌、TV)	
●講座に参加した理由	会話ができるようになりたい・・・15 仕事に必要だから・・・ 9 場所が近くて便利・・・ 0	日本語に関心があった・・・2 自由な時間があったから・・・0 友達を作りたい・・・ 1	
●授業時間について	長 い・・・ 0	短い・・・ 4	ちょうど良い・・・17
●授業内容について	難しい・・・ 3	よく理解できた・・・17	易しい・・・ 1
ボリュームは	多 い・・・ 1	少ない・・・ 0	ちょうど良い・・・19

- クラスの雰囲気について
 - ・中国語・ポルトガル語・日本語がゴチャゴチャだったが良かった
 - ・とても良い/良い
 - ・心地よい
- 講師について
 - ・10点満点
 - ・とても明るくて能力がある/頭がいい
 - ・優しい
 - ・良い/大変良い
 - ・熱心
 - ・とても外交的で良い
 - ・親切でいい人
 - ・楽しい
- 講座について
 - ・大変良い/良い
 - ・初日だが気に入った
 - ・おもしろい
 - ・役に立つと思う
- 今後の要望
 - ・時間と期間を増やしてほしい
 - ・講座の最後にテストをやしてほしい

平成13年6月13日
担当：法務省入国管理局

平成12年末現在における外国人登録者統計について

5 都道府県別・国籍（出身地）別 - 第7表・第5図・資料1-1, 1-2 -

- 東京都は、韓国・朝鮮及び中国を中心に、他の国籍も満遍なく分布。大阪府、京都府、山口県は、韓国・朝鮮が70パーセント以上を占める。静岡県は、ブラジルが50パーセント近くを占める。

都道府県別に国籍（出身地）別の外国人登録者数の割合をみると、東京都は、韓国・朝鮮が32.9パーセント、中国が31.0パーセントを占めており、二つの国籍を中心に、他の国籍も満遍なく分布している。大阪府、京都府及び山口県は、韓国・朝鮮が70パーセント以上を占めている。徳島県、愛媛県及び秋田県は、中国が40パーセント以上を占めている。静岡県、三重県、長野県、滋賀県及び岐阜県は、ブラジルが40パーセント以上を占めている。

国籍（出身地）別にみると、韓国・朝鮮が占める割合が高いのは、第1位が大阪府で76.3パーセント、以下京都府74.5パーセント、山口県71.0パーセントの順で、反対に割合が最も小さいのは、沖縄県の6.2パーセントである。

中国が大きな割合を占めているのは、第1位が徳島県で48.4パーセント、以下愛媛県41.6パーセント、秋田県41.0パーセントの順で、反対に割合が最も小さいのは、滋賀県の7.0パーセントである。

ブラジルが大きな割合を占めているのは、第1位が静岡県で52.7パーセント、以下三重県47.7パーセント、長野県47.4パーセント、滋賀県42.9パーセントの順で、反対に割合が最も小さいのは、福岡県の0.7パーセントである。

フィリピンが大きな割合を占めているのは、第1位が鹿児島県で26.8パーセント、以下熊本県24.1パーセント、福島県23.6パーセント、沖縄県21.6パーセントの順で、反対に割合が最も小さいのは、大阪府の1.9パーセントである。

また、他の国籍で特徴的なのは、米国が大きな割合を占めている沖縄県（24.3パーセント）、ペルーが大きな割合を占めている栃木県（12.6パーセント）、群馬県（10.4パーセント）、タイが大きな割合を占めている茨城県（10.1パーセント）、インドネシアが大きな割合を占めている宮崎県（11.5パーセント）等となっており、各都道府県によって特徴が見られる。

【第7表】 平成12年末現在外国人登録者数上位都府県の国籍（出身地）別の割合（%）

	韓国・朝鮮	中 国	ブラジル	フィリピン	ペ ル	米 国	そ の 他
全 国	37.7	19.9	15.1	8.6	2.7	2.6	13.4
東 京 都	32.9	31.0	1.6	8.3	0.7	5.7	19.8
大 阪 府	76.3	13.3	2.3	1.9	0.5	1.0	4.7
愛 知 県	34.3	11.3	34.1	7.7	3.6	1.2	7.8
神奈川県	27.9	22.5	10.2	9.5	5.6	3.7	20.6
兵 庫 県	65.3	15.8	3.8	2.5	0.9	2.3	9.4
埼 玉 県	21.6	25.9	15.7	12.3	4.6	1.8	18.1
千 葉 県	23.0	25.3	8.5	16.2	4.1	2.2	20.7
静 岡 県	10.1	8.3	52.7	11.2	6.8	1.0	9.9
京 都 府	74.5	12.6	1.3	3.0	0.4	1.9	6.3
茨 城 県	13.7	17.1	25.6	12.2	4.2	1.4	25.8
そ の 他	28.8	19.5	22.9	11.0	3.4	2.4	12.0

【第5図】 平成12年末現在 外国人登録者数上位都府県の国籍（出身地）別の割合

■韓国・朝鮮 ■中国 ■ブラジル ■フィリピン ■ペルー ■米国 ■その他

